

特集「令和元年度 校外教育協会委嘱研究」



令和元年度 第54回「郷土を描く児童生徒美術展」知事賞受賞作品

「かいこのフルーツがり」
本庄市立共和小学校 3年（当時） 山本 柚希 さん

（作品のみどころ）
わたをかいこのどうたいに見立てて動きがあって とても楽しそうですね。

主 な 内 容

- ・会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2）
- ・令和2年度通常総会、校外教育助成事業・・・・・・・・・・・・（3）
- ・令和元年度校外教育協会委嘱研究の概要・・・・・・・・・・・・（4～7）
- ・第55回「郷土を描く児童生徒美術展」・・・・・・・・・・・・（8）



コロナ禍の60周年



郷土愛を育む・・・埼玉県校外教育協会会長 村上 博俊

「郷土を描く美術展」は県立近代美術館で12月26・27日に



「皆さん、かんぱんは!」学校教育・校外教育の看板は、会員の皆さんです!!
そして埼玉の教育の看板は、児童生徒です。次の世代を担うのですから。

さて、コロナの関係で6月の総会は関係者のみで実施させていただきましたが、**60周年**の今年、「郷土を描く美術展」を北浦和の近代美術館で**12月26・27日**に120点の展示で実施予定であります。コロナ対策の上、お越しく下さい。

さて、「コロナ禍」の生活。いかがお過ごしでしょうか。私はもともとサービス精神旺盛で出会う方々に調子に乗って茶々を入れてしまうほうです。この「コロナ禍」の生活は大変不安で心細い気持ちでいっぱいですが、自分を戒める意味でも慎重で、落ち着いて、冷静な生活をしております。



個人的には、今年も川口市独自の外国人の子女に日本語を教える任務を受け、週に11校の小中学校を回り、25人の子供たちにマンツーマン中心で指導しております。万が一自分が感染すれば、一挙に市内に感染を広げる立場だと認識し、緊張の中、世界各国の児童生徒が心細い海外の生活をしながらも、日本・埼玉県・川口市に感謝し、楽しく学校に通っていることを実感し、この教育に携われる喜びを感じています。



コロナ禍の中、3～5月はコロナに振り回されておりましたが、休日を中心に忙しく屋外の活動ができました。6月からは我が家に無花果が実り、収穫する日々が8月末まで続きました。さらに、9～10月には栗の実が収穫でき、栗のイガや葉を庭に肥料として埋める作業。毎年、孵化させている金魚も50匹を超え大きいものは鯉と変わらない大きさに育っています。元気な母も時に具合を悪くし、都合をつけて病院への送り迎え。実に多様で多忙な日々がコロナ禍でも過ぎていきます。



さらに、今年是被爆75周年、被爆2世という立場で「未来への提言 原爆許すまじ 第3集」に投稿させてもいただきました。郷里広島から福岡を経て埼玉県に住み「郷土愛」を感じるに至ったことを書かせていただきました。

コロナは、私たち人間への警告ではないか。そして、その解決は地球・世界・日本を、つまり「郷土愛」を念頭に置くことが、コロナの解決につながるのではないか。郷土をこよなく愛し、淡々と継続可能な生活を思い描きながら生活せざるを得ない現在に、人類のありきべき道を感じております。





令和2年度 通常総会



令和2年6月4日（木）に、さいたま商工会議所にて令和2年度通常総会を開催いたしました。当日は、令和元年度決算などの2議案が提案され、全てが原案のとおり承認されました。

※ 市町村立小・中学校等の臨時休業等の状況や、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度は規模を縮小した上で、通常総会を開催いたしました。
また、本年6月に実施予定でありました協会設立60周年記念式典につきましては、次年度の開催に向け、延期といたしました。



校外教育研究委嘱



令和元年度研究委嘱校による研究の概要については、4～7ページに掲載していますので、御覧ください。また、令和2年度研究委嘱校は以下のとおりです。

《令和2年度校外教育研究委嘱校及びテーマ》

学校名	テーマ
桶川市立加納小学校	豊かな体験活動を通して自分をみがき地域とともに生きるかのうっ子の育成
加須市立加須南小学校	体験活動を通して地域とともに育む心豊かな児童の育成
さいたま市立原山中学校	地域に根差した豊かな体験活動による生き生きとした生徒の育成
秩父市立荒川中学校	地域で受け継がれてきた体験活動を通して地元荒川を愛する生徒の育成



校外教育助成事業



当協会では、一昨年度まで実施していた調査研究委員会による研究活動に代わる事業として、昨年度から新たに、県内の児童・生徒の校外での生活の充実を図るため、放課後子供教室において、これまで充実した活動を展開し、かつ一層の充実を図ることを計画している団体に対し、活動に係る経費の一部を助成する事業を実施しております。

今年度は、3つの団体からの申請に対し、選考の結果、下記の1つの団体に助成することと決定しました。

本助成により、児童・生徒の校外での活動が一層充実することを期待しています。

《令和2年度校外教育助成対象団体》

助成対象団体	参加対象となる学校名
Minamiふれあいスクール	熊谷市立熊谷南小学校

「地域に根ざし地域の特色を生かした体験活動による生き生きと学ぶ児童の育成」

委 嘱 校 さいたま市立栄小学校

1 研究主題

(1) 研究テーマ及びテーマ選定理由

本校は、平成6年より地域の方々の協力の下、さくら草の栽培・普及活動に全校で取り組んでいる。また、平成14年より総合的な学習の時間を中心に、お囃子の体験学習を行っている。そこで、このような活動を一層推進して、子どもが積極的に社会に参画する態度や能力を育成したいと考えたものである。

(2) 研究計画

○研究のねらい

地域が有する豊かな自然環境や郷土芸能に関わっていく中で、大切さを理解し、地域に愛着をもつ。児童の育成を図り、社会に積極的に参加する態度や能力を育成する。

○スケジュール

- 4月 さくら草を楽しむ会（栽培委員会、さくら草ボランティア、PTA）
- 5月 さくら草を知ろう（4年生が自分のさくら草を育てる）
- 6月 錦乃原さくら草自生地見学（4年生）
- 12月 さくら草の芽分け・芽植え（PTA、さくら草ボランティア、3・4年生）
- 1月 さくら草について、3年生に伝えよう（4年生）
- 1月 お囃子体験（佐知川上お囃子保存会から3年生が指導を受ける）
- 2月 お囃子体験（佐知川上お囃子保存会から3年生が指導を受ける）
- 3月 お囃子発表会（保護者と2年生に、お囃子を披露する）

2 本校の取組

(1) さくら草の栽培、普及活動



- ※ 4月：「さくら草を楽しむ会」では、さくら草を鑑賞するとともに保存会・ボランティアの方から育て方についての説明があった。
- ※ 12月：来年度のためにボランティアの方の指導を受けながら芽植えを行った。
- ※ 2月：4年生が3年生に、さくら草について学んだことを説明する会を設けた。

(2) お囃子の体験学習



- ※佐知川上おはやし保存会の方々に太鼓と踊りを教えていただいた。太鼓の練習は古タイヤをたたくことから始めた。
- ※昨年度は一斉臨時休業のため、発表会を中止した。とても残念であったが、これまでの練習でおはやしについての理解を深めることができた。

3 研究の成果と課題

成果：地域に引き継がれてきた「さくら草」や「おはやし」を保存会の方々に教えていただくことで、地域の歴史を知り、継承していくことの大切さを実感することができたようである。この学習をきっかけとして、地域の活動に参加する児童もいた。

課題：さくら草保存会、ボランティアの方の高齢化が進み、若い世代の人材確保が課題である。

「地域を愛し、地域とともにより良い自分を目指して成長する児童の育成」

委 嘱 校 鶴ヶ島市立藤小学校

1 研究主題

本校は、昭和58年に開校し、今年度36周年を迎えた。児童数442名、15学級（通常13、特支学級2）の学校である。

本校の学区は核家族が多く、生活の中で高齢者の方々と触れ合う機会が少ない。その一方で、学校応援団や校務員さんなど学校生活の中で高齢者の方のお世話になる機会はある。また、本校は比較的、校外学習を実施するにおいて、自然に囲まれた環境の中で学習活動ができると同時に、地域の福祉施設にも隣接されていたり、学校から徒歩数分～数十分で様々な学習場所へ行ったりして活動ができる立地にある。



高齢者の方への尊敬の念と配慮等を学び、探求的な学習を通して、地域の一員としてよりよい社会を創り出そうと考え実践に移せる児童を育成しようと考え、本研究主題を設定した。また、学年の発達段階に応じた地域の高齢者等との交流を通じ、地域福祉の実践力向上を図ることをねらいとした。

2 本校の取組（主な年間の活動スケジュール）

1年生 (11月)	・昔の遊びを教えていただく会で地域の老人会の方々と交流する。 (今年度は、インフルエンザが流行し、学級閉鎖のため中止)
2年生 (10～11月)	・まち探検を通して、地域の方々に親しみと愛着をもつ。
3年生 (6～7月)	・「里山サポートクラブ」の方のお話を聞き、市民の森への思いを知る。 ・より良い市民の森について考え、発表する。
4年生 (4～7月)	・高齢者施設「みどりの風」の方のお話を聞く。(4月) ・高齢者疑似体験をし、高齢者の方との接し方を考える。(6月) ・「みどりの風」を訪問し利用者の方々と交流する。(5月・7月)
5年生 (11月)	・地域の老人会の方々と交歓給食を行い、地域が望む藤小学校についてお話を聞く。 (今年度はインフルエンザが流行し中止)
6年生 (4～10月)	・鶴ヶ島市の高齢化率から30年後の鶴ヶ島を予想し、福祉の必要性を考える。 ・福祉協議会や市役所の方などからお話を聞き、自分たちの考える地域福祉を提案する。 ・災害時等に高齢者の方等にも安心、安全なまちづくりについて考える。 ・福祉協議会、市役所、自治会、学校応援団の方々等と共に避難所運営（HUG）ゲームを行う。

3 成果と課題

多様な交流活動を通して、多様な人間関係力が身に付くことにより、自分の地域を愛し、自己肯定感を高めながら、より良い自分を目指して成長する育成につなげることができた。

地域との交流の機会をさらに設け、互いを理解し、思いやれる心の育成も目指していきたい。



「地域や保護者との協働を通して、自己有用感を高める教育活動の展開」

委 嘱 校 新座市立第六中学校

1 本校の取組

(1) 「地域の力を学校に活かす」取組

本校は、平成30年度から「コミュニティ・スクール対象学校」となった。未来を創り出す子供たちの成長のためには、学校のみならず、社会総がかりで教育の実現を図らねばならない。その実現に向け学校運営協議会を「コミュニティ・スクール」の中核として据え、委員にあたる地域の自治会長、学識経験者、歴代PTA会長等の皆さまに学校運営に参画いただいている。



(2) 「保護者の力を学校に活かす」取組

- ・学校応援団活動「園芸ボランティアによる活動の様子」



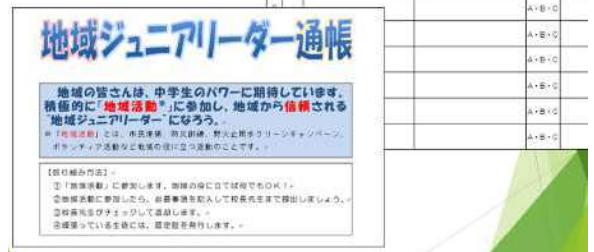
(3) 「生徒の力を地域に活かす」取組

- ・ジュニアリーダー制度

平成27年度より、「マナー・自治・正義 3UP六中」をスローガンに、生徒の自治力向上に向けた取組の一つとして始まった。自治会行事への参加、自治体が行う活動への支援等を依頼に応じて、生徒が出向する制度である。

- ・生徒会による地域活動

NEXT STAGE 信頼・自主性・つながり～さらに六中を発展させよう～をスローガンに活動を展開した。生徒へのアンケート結果の分析等を踏まえて、「小学校への働きかけ」「地域への働きかけ」に焦点を当てた取組を計画・推進した。10月の40周年記念式典、2月の市教育シンポジウムにて成果等を発表した。



【校区小学校での読み聞かせ】



【新入生向けリーフレットの作成・配布】



【校区小学校でのあいさつ運動】



【六中SNSマナーの策定・啓発】

六中SNSマナー【やまざくら】

や やめよう悪口
 ま まわりに許可を取ろう
 ざ 雑音かもよその通知【時間】
 く クリッカー一つで広がるデマ
 ら らくらく特定あなたの情報

2 成果と課題

成果は、地域との関わりによって地域に関する興味・関心が高まり、たくさんの方々から見守られていることを実感できる機会となったことである。

課題は、校外から参加する方が固定化する傾向にあり、より多くの方が参加できるよう呼びかけを工夫することと、コミュニティ・スクールとしての強みを生かして、学校が必要とする場面に必要な応援をお願いできる体制を整えることである。

「自然豊かな中での体験活動を通し、勤労の尊さと共に、自主性を高め、感動を味わえる生徒を育成する」

委 嘱 校 春日部市立豊春中学校

1 研究主題

(1) 研究の概要

本校の山村民泊体験学習は、人とのふれあいや食のありがたさについて身をもって体験できる有意義な活動である。本研究を深めるには、この行事における教育的効果をさらに高めることが重要であると考えた。そこで、生徒と民泊先の方々との出会いをより深いものにするをねらいとし、その手立てとして、感謝の気持ちを表すための「色紙作成」と「合唱披露」を2泊3日の行程の中で実践した。また、事後指導としての新聞づくりやお礼状の作成、東京校外学習に関わるアンケート調査を通して、効果の検証を行った。

(2) 期待される成果

- ・より深い人との関わりを通し、感謝の気持ちや思いやりの気持ちを行動に表そうとする態度が身に付く。
- ・農業体験を通して食のありがたさを実感する心や、行事以降も人とのふれあいを大切にできる心が育つ。

2 本校の取組

(1) 合唱練習（6月～9月）

合唱を届ける相手がいることや当日の合唱披露場面を想像させながら練習することで山村民泊体験学習に対する意欲を高めさせ、「合唱は、相手に気持ちを伝えることができるものであること」を意識しながら活動した。

(2) 農業体験（当日）

2日間の農業体験で大変さを感じながらも、自分で苦労して収穫したものが食卓に並んでいる様子を見ることで、食のありがたさを実感した。また、普段と異なる環境の中で、民泊先の方々と共に生活をし、人のあたたかさにもふれることができた。

(3) 色紙作成（当日）

山村民泊中に撮影した写真を使用し、写真付きの色紙を生徒が作成し民泊先の方に直接渡す取組を行った。生徒は、色紙の制作を通して3日間の貴重な体験を振り返ることができ、民泊先の方とのふれあいをより深いものにすることができた。

(4) 閉校式での合唱披露（当日）

3日間の活動やふれあいを振り返り、お別れの合唱を行った。合唱祭へ向けて練習をしている学年合唱曲を披露すると共に、「ふるさと」を民泊先の方々と共に歌うことで、感謝の気持ちを伝え、この3日間の経験や思いを共有することができた。

(5) 事後学習と東京校外学習における生徒の活動

事後学習の新聞づくりでは、多くの生徒が民泊先の方とのふれあいを記事にしていた。また、1月に行った東京校外学習では、実際に見学地を訪れることで、新たな発見をするとともに、人とのふれあいについて、感動を味わえた生徒も多かった。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・山村民泊や合唱による、より深い人との関わりを通し、感謝の気持ちや思いやりの気持ちを行動に表そうとする態度が身に付けさせることができた。また、自分たち自身が感動を味わい、人にも感動を与えられるということを多くの生徒が実感できた。
- ・農業体験を通して食のありがたさを実感する心や、行事以降も人とのふれあいを大切にできる心を育むことができた。また、山村民泊体験学習での感動や人とふれあう経験を東京校外学習につなげ、多くの行事で、生徒は人のあたたかさを感じる事ができた。

(2) 課題

- ・協働する力を伸ばすために、自分の体験や感想、学んだことを発表することで、生活に生かし、発信する力を向上させる必要がある。また、そのためには他教科や他の行事と関連させながら、横断的かつ継続した取組をしていく必要がある。

第55回「郷土を描く児童生徒美術展」

趣 旨 「郷土を描く児童生徒美術展」は、児童生徒が郷土を描き、その作品による展覧会を実施することによって、郷土埼玉に対する理解と認識を深め、郷土愛の高揚を図ろうとするもので、「埼玉県芸術文化祭2020地域文化事業」として行うものです。

主 催 埼玉県校外教育協会 埼玉県 埼玉県教育委員会 埼玉県芸術文化祭実行委員会

共 催 さいたま市教育委員会 埼玉都市町村教育委員会連合会 埼玉県美術教育連盟

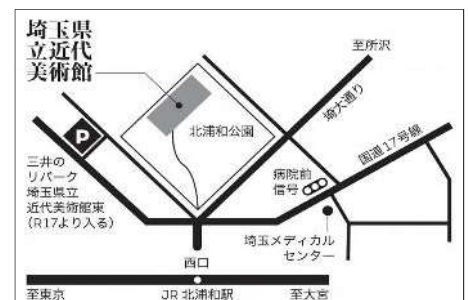
期 日 中央展覧会
令和2年12月26日(土)～12月27日(日) 10時00分～16時30分(12月27日は15時30分まで)
知事賞作品120点を展示します*。

受賞者名簿(特選・知事賞)は校外教育協会のHPに11月上旬に公開する予定です。

*例年、特選作品約1,010点を展示しておりました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、展覧会場の「密」を避けるため、知事賞のみを展示します。

会 場 埼玉県立近代美術館
(さいたま市浦和区常盤9-30-1)
【電車】
JR京浜東北線北浦和駅西口徒歩3分(北浦和公園内)

関係者を除く一般の方への駐車場の開放は行いません。
御来場の際は、公共交通機関等の御利用をお願いします。

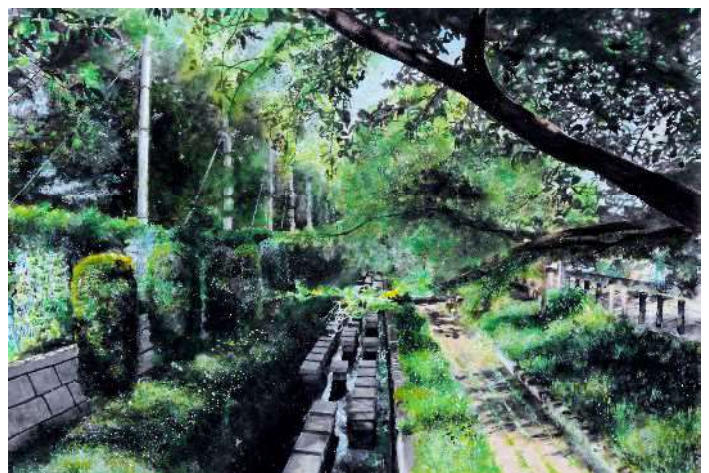



～第54回美術展の作品から～

表 彰 優れた作品には、賞状を授与します。

【区分】
特選：約1,010点
(知事賞作品120点を含む。)
入選：約10,000点。

知事賞受賞者を、「県民の日記念式典(11月14日(木)於・埼玉会館)」にて表彰します。
また、知事賞作品は「画集 埼玉子どもの絵」(埼玉新聞社発行)に掲載されます。



H P [埼玉県 校外教育](#) で [検索](#) 
すると協会のトップページから入れます。

「安行遊歩道」
川口市立安行東中学校 1年 (当時) 林 羽純 さん